

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第2部門第1区分
 【発行日】平成23年11月24日(2011.11.24)

【公表番号】特表2008-513192(P2008-513192A)
 【公表日】平成20年5月1日(2008.5.1)
 【年通号数】公開・登録公報2008-017
 【出願番号】特願2007-531755(P2007-531755)
 【国際特許分類】

B 0 5 D 5/06 (2006.01)

G 0 1 J 3/46 (2006.01)

【 F I 】

B 0 5 D 5/06 G

G 0 1 J 3/46 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年10月4日(2011.10.4)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

補修されるべき基体上の塗膜の色の特性およびテクスチャ特性に補修塗料をマッチさせる方法であって、

テクスチャ特性は、小さい構成部分の大きさおよび組織により定められる、塗膜面における目視できる表面構造と定義され、

該補修塗料が塗料モジュールの濃度に基づいて配合され、各塗料モジュールが特定のテクスチャデータおよび色データに関連付けられ、該塗料モジュールのテクスチャデータおよび色データを使用する計算用テクスチャおよび色モデルが、マッチするテクスチャおよび色特性を有する補修塗料を算出するために使用され、

色差配合およびテクスチャ差配合を、重み因子を用いて合体する、色およびテクスチャ差配合が使用され、

重み因子の最適値がそれぞれの別個の色配合について具体的に定められることを特徴とする上記方法。

【請求項2】

分光測色計が、元の塗料の色を測定するために使用されることを特徴とする、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

デジタル画像化装置、たとえばCCDカメラが、元の塗膜のテクスチャを画像化するために使用されること、および画像解析ソフトウェアが、該画像化されたテクスチャを解析しテクスチャパラメータを計算するために使用されることを特徴とする、請求項1または2のいずれか1項に記載の方法。

【請求項4】

特定のテクスチャにマッチさせるために要求される、所定の一组の効果モジュールの濃度が計算されること、およびその後、該効果モジュールの混合物がさらなるモジュールと混合されることを特徴とする、請求項1～3のいずれか1項に記載の方法。

【請求項5】

色が補修されるために、該補修されるべき色の目視評価の必要なしに効果モジュールが

選択されることを特徴とする、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0004

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0004】

色の他に、塗膜は多数のさらなる目視上の特性を示す。とりわけ、効果顔料、たとえばアルミニウムフレーク顔料または真珠光沢顔料が使用されると、塗膜の外観は一様な色の外観ではなくて、テクスチャを示す。粗さ (coarseness)、グリント (glint、キラツキ)、マイクロ光輝 (micro-brilliance)、曇り、まだら、斑点、きらめき (sparkle) または輝き (glitter) のような現象を、これは包含することができる。以下において、物質の小さい構成部分の大きさおよび組織により定められる、塗膜面における目視できる表面構造と、テクスチャは定義される。この文脈において、テクスチャは、塗膜の粗度を含まないで、塗膜面における目視できる不規則形状のみを包含する。人の目の解像度よりも小さい構造は「色」に寄与し、一方、それよりも大きい構造は一般に「テクスチャ」にも寄与する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

本発明の目的は、基体上に元々施与された塗料との補修塗料のマッチングを改良して、好ましくは特定のテクスチャデータを有する完成組成物のデータベースを構築する必要なしに、より速くおよびより信頼できる様式でより正確な結果を与えることである。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

補修されるべき基体上の塗膜のテクスチャ特性に補修塗料をマッチさせる方法によって本発明の目的は達成され、この方法では、各塗料モジュールが特定のテクスチャデータに関連付けられていること、および該塗料モジュールのテクスチャデータを使用する計算用テクスチャモデルが、マッチするテクスチャ特性を有する補修塗料を算出することを特徴とする塗料モジュールの濃度に基づいて、該補修塗料が配合される。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

本発明は、基体上の塗膜を補修する方法に関し、および所要のテクスチャ特性にマッチする塗料モジュールの組み合わせを計算するために使用される特定のテクスチャデータを有する塗料モジュールを使用し、計算されたように該モジュールを混合し、そして塗り替えられるべき基体上に該得られた塗料を施与して、補修されるべき基体上の塗膜のテクスチャ特性に補修塗料をマッチさせる方法にも関する。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0042

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0042】

標準塗料、たとえば補修されるべき自動車の塗料のテクスチャは、多数のテクスチャパラメータ T^{iST} で表現されることができる。この標準塗料のテクスチャがマッチされるべきときは、(W.H.Press、B.P.Flannery、S.A.TeukolskyおよびW.T.Vetterling著、「Numerical Recipes in Pascal」、Cambridge University Press刊、1989年に記載された)Marquardt-Levenbergアルゴリズムのような非線形最適化アルゴリズムを使用することによって、たとえば最小二乗法のような計算方法が使用されて、トナー濃度を変えることによって以下の表現を最小化することができる。

$$(6) \quad X^2 = \sum_{i=1}^I \{T_i(c^1, c^2, \dots, c^V) - T_i^{ST}\}^2$$

1個の塗料配合について、色配合と特定の目標色との理論的テクスチャ差が最小化される(すなわち、式(6)の X^2 が最小化される)ようにトナー濃度が変わらることを、これは意味する。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0067

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0067】

反射率値 $RSTg$ で表現された標準色(たとえば、補修されるべき自動車の色)にマッチさせるために、非線形最適化アルゴリズム、たとえばMarquardt-Levenbergアルゴリズムを使用することによって以下の表現を最小化するために、たとえば最小二乗法が使用されることができる。

$$(13) \quad X^2 = \sum_{g=1}^G \sum_{\lambda=1}^{\Lambda} \{R_{g\lambda}(c^1, c^2, \dots, c^V) - R_{g\lambda}^{ST}\}^2$$

1個の色配合について、該色配合と特定の目標色との理論的色差が最小化される(すなわち、式(13)の X^2 が最小化される)ように、トナー濃度が変わらることを、これは意味する。1個の色配合中のV個の種々のトナーの濃度 c_i は、各トナーについて固定されたKおよびSの値を使用する以下の式でパラメータ c_i をフィッティングさせることによって、推定される。

$$(14) \quad R_{g\lambda}(\text{フィッティングされたパラメータ} : c^1, c^2, \dots, c^V; \text{固定されたパラメータ} : K_{g\lambda}^1, K_{g\lambda}^2, \dots, K_{g\lambda}^V, S_{g\lambda}^1, S_{g\lambda}^2, \dots, S_{g\lambda}^V)$$